

本部長	主な意見
河村 たかし	○世界の確たる面白いまちにしないといけない。産業は力があるので、後は面白くしてくれという声が圧倒的。観光や文化の部門は、競争させなければならない。 ○自慢があれば、観光になる。そう考えると、名古屋城の天守閣がコンクリートで復元されたのは残念であり、名古屋の人間にとってのアイデンティティの喪失である。天守閣を木造に戻さなければならない。 ○シンボルをつくることが大事である。名古屋駅に1,000mタワーをつくること、名フィルを世界のトップとするなど、作戦を練っている。 ○熱田神宮を伊勢神宮と両方盛り上げて、毎日、蒸気機関車が1日1往復するぐらいになると、ずいぶん楽しくなるのではないか。 ○本丸御殿の障壁画は、本物のものを飾りたい。もう1回、心の魂を本物でつくりあげないといけない。
大村 秀章	○ブランド化ということでは、愛知ブランド企業の認定や、地域ブランド制度の活用をしているところであり、それをしっかり続けていきたい。 ○「おもてなし武将隊」のようなショー観光を発展させていく。来年度には、全国から人を集めて、大高緑地公園で、本当の合戦を再現したい。 ○また、来年のミラノ万博では、名古屋めしを引っ提げて、愛知ウィーク、名古屋ウィークという形で参加したい。 ○ウィメンズマラソンのような世界に発信できるスポーツ大会をつくっていくことが必要。名古屋市と一緒にスポーツコミッションをつくっていければと思う。 ○この地区の核は名古屋である。民間の知恵を出してもらいながら、人が集まる仕掛け、中核的な施設・拠点ができると良い。 ○セントレアを中核に、名古屋へ来て名古屋から足を伸ばすという形を皆さんと一緒につくっていきたい。

本部員	主な意見
浅井 慎平	○東京と比べるという話がある限りは、名古屋はオリジナリティが発揮できないのではないかと。日本は、首都圏、東京を中心に動いているので、どうしても、名古屋・大阪を含め、地方は、東京とは違うポジションにならざるを得ない。 ○基本的には、ここに住んでいる人たちが、住んでいて良かった、子・孫にも伝えていきたいという思いが持てる地域でなければならない。そのための、発信する力、名古屋はこんなところだとどうやって伝えていくかについての知恵を出していきたい。その背後にある中京という都市が目指していく形が何であるかについては、知事・市長に大いに出してもらいたい。 ○名古屋があつてこそ、すばらしい文化に触れることができたんだと、日本や世界の人たちが思えるような仕組みを、知事・市長中心に押し出せるといい。 ○この地は、大学もあり地の利も良い。日本や世界の若者が様々な形で、人間の交流が非常にスムーズに、気分よくできる中京を目指したらどうか。 ○文化とは、継承と創造である。これまで積み上げてきた文化を洗い直し、継承すべきものは何であるのか、想像するものは何であるのかを見極めながら進めていくことが必要である。名古屋城の復元の問題も、形があれば良いのではなく、魂を入れてこそその城だという考えで、この土地に生まれた人間の魂だと思う。 ○この地域の文化が何であるかというときに、メディアを無視してはできない。人間の交流が生まれる、人間の感情が掻き立てられ、情熱が生まれるような魅力的なものを、若い人たちを巻きこんで、メディアと一緒に創造していかなければならない。

安田 文吉

- 知多半島から能登半島までの線に、からくり山車が集中しており、昇龍道の南北の赤い線は、からくり山車の分布の一番の中心。昇龍道を考えるときには、ご当地の中心であるからくり山車が入っていないのはおかしい。
- 東京（江戸）と名古屋の地域的特色の違いについて考えることが大事である。江戸は、各地から色々な人が移動してきてまちができた一方で、名古屋は、もともと住み着いている人が多く、あまり移動がない土地柄である。その違いを大いに活用できると良い。
- 三英傑は古い。徳川家康が、江戸ではなく、この地域を経済活動の拠点にしようとしたという歴史的流れがあって、生産性の高さにつながっていることを認識しておくべき。
- この地域には、地芝居、祭り、からくり山車などいろいろある。そういうものを、ひとつずつではなく、リンクさせて一つのまとまったものとするが良い。地芝居、からくり山車や、それに付随した催しをやっていけば、東京とは違ったひとつの文化圏をつくっていいのではないか。
- 長く続けることが大事。1 回きりでは駄目である。また、地元の人にも外部から来た人にも関心がもてるという要素が大事である。
- 文化は正確に把握しなければ、発展していかない。表面的でなく、その背景などを把握する必要がある。